

なぜ、田舎で歯科医院を開業したのか？

Why Did You Open a Dental Clinic in the Countryside?

高崎智也

Tomoya TAKASAKI



(たかさき・ともや)

ICDフェロー

医療法人 NATURAL TEETH
理事長

東北大学大学院歯学研究
科口腔保健発育学講座予
防歯科学分野非常勤講師

「なぜ、そんな田舎で歯科医院を開業したのか？」
2005年5月に開業して16年以上経つ今でも、質問をよく受けます。私の開業先は、長崎県は西の端の平戸市生月（いきつき）島です。開業当時約7,500人の人口で、3軒目の歯科医院でした。2021年12月現在、島内に2軒で人口は4,954人となり開業して16年で33%減少しました。いわゆる超高齢社会に突入している地域です。

私は家が裕福ではなかったので、大学&大学院を奨学金とアルバイトで生活しました。大学院は口腔外科に所属しながら、医学部の法医学教室に出向し、司法解剖の補助をしながら研究を行いました。大学院修了時、結婚して子供がいたのでポストが空いてない医局を離れました。院卒は手が動かず使えないと一般的に思われていて、就職活動は難儀することになりました。そんな時、当時珍しかった医科歯科連携のノンメタルの歯科医院の分院が福岡に出来たばかりで、条件も良く就職しました。全て自費診療で、飛行機を使って治療に来られる方もおられ、とても良い経験を積ませてもらいました。

しかし、経営母体がビル管理会社だったため治療方針が合わず2年弱で退社を決意しました。開業は自己資金ゼロどころか、奨学金のマイナス800万からのスタート。当時医院に出入りしていた医療コンサルの方に、今後の方向性を相談したところ、軍資金がなくても先生は開業できると応援して下さい、最初から上手くいく場所として生月島を薦めてくれました。

福岡では窓がないビルクリニックの中での診療でした。視察にきた際、生月島の海の美しさに魅了され、直ぐに開業を決めました。島といっても、平戸大橋、生月大橋があり車で往来ができます。開業当初は片道800円かかったのですが、市町村統合でいずれ無料になるという情報もあり、実際徐々に下がり2年後には無料になりました。

景色の良さだけで開業したわけではありません。生月島は以前、大型漁船団が数社あり過去に漁獲高日本一になったことがありました。当時の親和銀行（現十八親和銀行）生月支店の支店長は出世コースでした。

可処分所得が高いと分かっていたので、福岡で行っていた自費診療を行えると判断したのが大きいです。



図1 生月島 塩俵の断崖



図2 アゴ漁と世界遺産 中江ノ島

結果初月から月100万以上の売上、この僻地でも自費率6割以上を維持しています。患者さんから頂いた治療費を積極的に、クリニックの投資に使い、研修費、広い診療室、感染予防対策、ZEISSのマイクロスコープ4台導入など、より良い医療を提供する経営努力を続けています。

歯科医院は女性の職場です。開業時から産休育休、時短勤務などを導入してきたので、3人のお子さんを

持つオープニングスタッフの歯科衛生士は今も勤務しています。平均勤続年数約8年で、歯科衛生士は6名在籍しています。

今後お金で開業を諦めている若い先生達に、マーケティング、経営、労務を考え実践すれば諦める必要はないと、ICDの活動を通じて伝えていけたらと思います。西の端の小さな島より。宜しくお願いします。